

⑧ パソコン等の情報機器を活発に活用し、楽しく英語が学べる環境づくりをする研究

(1) 授業における情報機器の活用

・実施内容及び成果

ア オーラル・コミュニケーションⅠの授業においてスピーチの指導時 DVD を用いた。ジョン・F・ケネディ、マーティン・ルーサー・キング Jr, マルコム X のスピーチを聞かせ、特に彼らのアイコンタクトの様子を観察させ各自の行うスピーチで実践するよう指導した。原稿をなるべく見ないで、顔を上げ聴衆の様子を見るようなスタイルの定着に勤めた。ビデオ等を用い検証を行ったところ、わずかではあるがアイコンタクトをとりながらスピーチを行える生徒が増加した。

イ オーラル・コミュニケーションⅠの pre-writing の授業においてコンピュータを使用した。パソコンの操作から授業を行ったが、ほぼ全員の生徒が使い方をマスターしていたので、与えられた英文を写すタイピングレッスンへとスムーズに進むことができた。タイプする速度は個人差はあるが、比較的普通の成績が良好な生徒ほど速くタイプできるような傾向にある。一方では、普段からパソコンに親しんでいる生徒も速くタイプできる傾向にある。単語から語句、語句から文へとまとまった単位でタイプできること、文字の位置を正確に把握していること、この両者が両立している生徒は他の生徒より約半分の時間で課題を終えてしまった。単調な作業で興味を持続できない生徒もいるが、今後、ライティングの授業やスピーチ原稿の作成で活用しようと考えている。

(2) 「オンライン講座」(Global English) の取り組み

・実施内容

インターネットの教材である「Global English」を使用して、個人の能力に応じて総合的な英語力の向上をはかるプログラムとして、藤代高等学校「オンライン講座」と名付けて実施した。

- ・実施期間…平成16年10月から6ヶ月間
- ・受講者数…29名
- ・実施方法…月1回のスクーリング(場所…コンピュータ室)
週2回放課後コンピュータ室を利用して学習
毎日自宅での自己学習

・評価方法

開始時及び中間時そして終了時にレベルチェックテストを実施し、生徒個人の英語力の移り変わりについて評価する。3回目のテストが終了した時点での結果は、平均点は、1st Test より28点上昇しているが、生徒によって大幅に得点が上昇している生徒と、得点が下がっている生徒が見受けられる。また、1st Test 2nd Test は全体的に得点上昇は大きかったが、2nd Test と 3rd Test の間の得点上昇があまり見られなかった点を考えると、これは生徒個人のモチベーションが大きく関わっていると考えられる。最初はこの講座に対して意欲を持って取り組んでいたが、年明けごろからだんだんと慣れてしまい、モチベーションが下がってきたことが考えられる。また個人によっても、継続的に頑張れる生徒と、諦めてしまっている

生徒など様々な状態が見て取れる。今後の課題はいかにモチベーションを継続することができるかであると考えられる。そのためには海外研修とリンクさせたり、他のプログラムとリンクさせたり検討する必要がある。

アンケートの結果を見ると、「オンライン講座」は、多くの生徒にとっては好評であったようである。「ためになった」という回答が27人中25人。「英語力が向上した」と感じている生徒が27人中17人であった。

*資料12 「藤代高校オンライン講座アンケート」